

「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」どんな病気を診るの？

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、耳・鼻・咽喉（のど）・口腔*1・頭頸部*2の疾患を診ます。今回、私たちが診療する疾患の一部をご紹介します。

*1 口腔 … 口からのどまでの間 *2 頭頸部 … 脳と目を除く首から上のすべての領域

「失われた聴覚（聴く力）を取り戻す人工内耳」

人工内耳の手術は、ほぼ完全に聴覚を失い補聴器の効果が十分に得られない、高度、重度の難聴の方が適応となります。お子さまから、ご高齢の方まで、全身状態が良好な方で、手術や術後のリハビリに対する意欲や協力が得られれば、年齢の上限はありません。



顕微鏡下に行う耳の手術



術後のプログラミングと
リハビリの様子

耳の中に聴こえの神経を直接刺激する小型の機械を全身麻酔の手術で埋め込み、術後はプログラミングで入れる音の大きさを調整します。聴覚リハビリと機械のプログラミングによって、失われた聴覚を取り戻すことができる可能性があります。

「しっかり鼻呼吸で快適ライフを」

鼻詰まりの原因には、アレルギーや副鼻腔炎などの炎症を起こす疾患の他に、鼻の左右を隔てる柱の部分が曲がっている（鼻中隔彎曲症）など、構造的な問題が関与している場合があります。重度の鼻詰まりを伴うアレルギー性鼻炎と鼻中隔彎曲症に対して行う、鼻の内視鏡手術は、鼻の通りを改善し、鼻詰まりがもたらしていた睡眠障害や口呼吸を改善し、快適な日常生活へと導いてくれます。



全身麻酔で行う鼻の内視鏡手術

「喫煙が原因となる、喉頭癌」

喫煙との因果関係が明確な疾患は多数ありますが、その一つが喉頭癌です。大きさや転移の有無によって放射線治療か手術か、化学療法を組み合わせるか、治療方針が決定します。時に、命と引き換えに大事な声を失う選択を余儀なくされることもあります。声を失っても代わりの発声方法があります。また、筆記板や携帯電話の文字入力を利用したコミュニケーション方法もあり、その方らしい人生を送って頂いています。喉頭癌の予防法は禁煙につきますが、喫煙歴のある方は、定期的なのどの検診もお忘れなく！



細い内視鏡（直径2.4mm）
を用いた喉頭の診察

耳・鼻・のどの症状でお困りのことがあればご相談ください。

（文責：耳鼻咽喉科・頭頸部外科 立山 香織）

お気軽に総合患者支援センターにご相談ください！



総合患者支援センターは、地域医療機関との連携強化を目的に平成15年、地域医療連携センターとして開設されました。平成28年10月には、地域包括ケアシステムに対応した患者中心の医療体系を提供するという役割を掲げ、総合患者支援センターへ名称変更を行いました。「総合患者支援センター受付部門」「患者サポート部門」「地域連携推進部門」の3部門が、初診時から退院まで、切れ目のない療養支援を目指し、入院前から患者情報を多職種で共有しながら円滑な検査や治療に繋がっています。総合患者支援センターのスタッフは、医師、看護師、ソーシャルワーカー（MSW・PSW）、臨床心理士、公認心理師、事務員、さらには他の多職種（兼任：栄養士・薬剤師・歯科）の方々とともにサービスを提供しています。患者・家族が安心して入院治療を受け、その後地域で療養や生活ができるように退院支援に取り組んでいます。「地域連携推進部門」では、地域の医療・福祉機関との連携を強化し、患者さんの生活に合わせた医療・福祉サービスの調整に取り組んでいます。何か、ご不安がございましたら、お気軽にセンターにご相談ください！

（文責：総合患者支援センター 藤本 和之）

入院される患者さんへ

- ◆入院予定の患者さんに入院前から面談を行い、療養に必要な情報交換をしております。入院前の外来受診の際に、総合患者支援センターにお越しいただくようお願いすることがあります。お疲れのことと存じますが、ご協力をお願いいたします。
- ◆本院で急性期の治療を受けた後、ご自宅や他の医療施設など、次の療養先を考えていきますが、あらかじめご希望がある場合は職員にお伝えください。ご希望が叶うよう努力いたします。
- ◆入院が決定した患者さんに「入院のご案内」を配布しております。本院の入院生活に必要な情報が記載されておりますので、入院前にご一読ください。
- ◆診療科によっては、待機患者さんが多く入院日の決定までに数ヶ月お待たせすることがあります。待機時間の短縮に努めて参りますが、昨今のコロナウイルス感染症の流行によりお待たせすることもありますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。
- ◆コロナウイルス感染症が猛威を振っております。本院が機能停止に陥ることのないように、十分な感染症対策を講じながら診療を継続しております。ご来院の際に発熱や風邪症状のある患者さんにつきましては、事前にご申告ください。



左：総合患者支援センターの患者サポート部門スタッフと
地域連携推進部門スタッフ
右：総合患者支援センターの受付部門スタッフ

おしえて！

新しい放射線治療機器について

令和4年7月より放射線治療部門は
新規一転すべての治療機器を更新いたしました。



今回は、新しい放射線治療機器とこの機器によって可能となった治療についてご紹介いたします。

新しくなった治療機器は外部照射*に用いる^{トゥルービーム}TrueBeam (Varian 社) と^{バリアン}Radixact (Accuray 社) の2台となります。

*外部照射…リニアック(直線加速器)という装置を用いて高エネルギーのX線や電子線を体の外から照射して治療を行います。

TrueBeamは従来型の放射線治療機器であり、治療ごとにCT・X線を用いて、照射する範囲の誤差を少なくする画像誘導放射線治療が可能になりました。これにより正常組織への放射線の影響を減らして病変への照射を増やすことが可能になります。

もう一方の^{ラディザクト}Radixactは従来型と異なる円筒状(CTのような)の装置であり寝台が動くことで長い距離の治療が可能になりました。この機器は呼吸の動きに対し病変を追従して治療可能な^{シンクロニイ}Synchronyという機能を有しており、呼吸をしてもよりピンポイントな治療(胴体追尾放射線治療)が可能となりました。

これらの新しい治療機器で強度変調放射線治療(IMRT)や定位放射線治療(SRT/SBRT)などの高精度放射線治療が可能となりました。

強度変調放射線治療とは、病変周囲に放射線で影響を受ける臓器が存在する場合、周囲の臓器への影響を少なくし病変には十分な治療を行う(強度変調)治療方法です。これにより前立腺癌・頭頸部癌・婦人科癌などの病変と周囲の重要臓器が近接している癌について放射線による副作用を軽減した治療を行うことが可能になります。

定位放射線治療は、頭部では転移性脳腫瘍や良性の脳腫瘍等に行う治療であり、体幹部で5センチ以下の転移のない肺癌や肝癌、3個以内で他病巣の無い転移性肺癌や転移性肝癌、転移の無い限局性の前立腺癌や膀胱癌、5センチ以下の転移性脊椎腫瘍、5個以内の主病変の病勢が抑えられ得ている転移(オリゴ転移)などが保険適応として認められており、ピンポイントで治療をすることで安全に治療を行うことが可能となっています。

これらの新しい治療を用いることで、これまで以上に副作用の軽減と治療効果の向上を図っていきます。

(文責：放射線科 松本 陽)



TrueBeam トゥルービーム



Radixact ラディザクト

令和4年度大分大学連携病院長懇談会総会の開催

令和4年6月22日レンブラントホテル大分にて、大分大学連携病院長懇談会総会を開催しました。当会は、地域医療の充実のため、大分大学と県内医療機関が相互の交流及び親睦を深めることを目的とし、平成16年から行っております。

新型コロナウイルス感染症の影響で、今回は3年ぶりの開催となり、大分大学から病院長を始め43名、県内の医療機関から67名の病院長等が参加されました。また、来賓として、藤内大分県福祉保健部理事兼審議監及び河野大分県医師会長にご参加いただきました。

三股病院長等からの挨拶の後、「地域に定着する若手医師の育成－withコロナ時代の取り組み－」、「医師の働き方改革に対する大分大学の取り組み」と題して、各担当副病院長から講演を行いました。その後、意見交換が行われ、本院と連携医療機関及び大分県の医療の更なる充実、並びに次年度は、今回できなかった総会後の懇親会を行える日常が戻っていることを祈念しつつ、盛会のうちに終了しました。



(文責：総務課)

挟間キャンパスにおける学内美化作業



令和4年7月27日に、挟間キャンパス周辺美化作業を行いました。

挟間キャンパスは、大分大学の医学部と医学部附属病院がありますので、病院職員だけでなく、医学部の教職員や医学部生と一緒に、例年このような活動を行っています。

今回は、医学部長の呼びかけにより、挟間キャンパス及びその周辺の美化を図ることを目的として、病院及び医学部の職員や医学部の学生によって、キャンパス前のバス停付近や敷地内の駐車場等に落ちているペットボトルや空き缶等のゴミを回収しました。当日は、大変暑い天気となりましたが、たくさんの職員や学生が参加していました。

これからも、附属病院を利用される皆様や周辺の皆様に、少しでも気持ちよく過ごしていただけるよう、挟間キャンパス及び周辺の美化活動を継続して行ってきたいと思います。



附属病院 病理診断科・病理部は国際規格 (ISO15189) の臨床検査室に認定されました

病理診断科・病理部は、令和4年6月24日に国際規格 (ISO15189) に準拠した臨床検査室として認定されました。当院病理診断科・病理部の認定番号は「RML02910」で、これは国内で291番目に認定されたことを表しています。

国際規格 (ISO15189) とは、検査を実施する臨床検査室の技術能力を証明する手段の一つで、品質マネジメントシステムと技術的要求事項から構成されており、認定取得した臨床検査室の検査値は国際的に通用することを意味します。この認定取得により本院の診療、治験ならびに研究等に寄与できると考えています。

認定取得を果たすことができましたが、ISO15189取得は、あくまでもスタート地点に過ぎません。ほぼ毎年、更新のための審査があることから認定維持に向けて職員一丸となって、さらに精進して参ります。



(文責：病理診断科・病理部 平川 功二)

初診時・再診時の「選定療養費」がかわります ～令和4年10月から料金変更のお知らせ～

「選定療養費」とは「初期の治療は地域の医院・診療所 (かかりつけ医) で、高度・専門医療は特定機能病院で行う」という、医療機関の機能分担の推進を目的として厚生労働省により制定された制度です。

大分大学医学部附属病院は特定機能病院として、地域の医院・診療所 (かかりつけ医) からの紹介状 (診療情報提供書) を持参していただくことを原則としています。又、初診完全予約制の診療科の受診には、必ずかかりつけ医等からの予約・紹介状が必要です。

次の患者さんには初診及び再診時に選定療養費がかかります。

初診

7,700円 (医科・歯科)

- 他の医療機関からの紹介状がなく初診で受診した場合
※過去に当院を受診された事があっても、1年以上受診がない患者さんも初診扱いとなります。

再診

3,300円 (医科・歯科)

- 再診患者さんの中で、病状が安定し、診療所等への紹介を受けた患者さんがかかりつけ医の紹介なしに再受診された場合
- 再診患者さんの中で、「かかりつけ医」への紹介を当院より申し出たが、引き続き当院にて診療を希望された場合。

(文責：医事課)

オンライン資格確認の運用について

令和4年10月1日から、オンライン資格確認の運用を開始します。

当院では、マイナンバーカードの顔認証付カードリーダーを「1再診受付」カウンターに設置しており、マイナンバーカードを健康保険証として利用ができます。



あなたの声を お待ちしております

良い病院になるために

患者さんの声は、要約して載せておりますので
ご了承ください。



声

病院職員の患者に対する言動にぞんざいな印象を持たざるを得ません。大分の方言を丸出しで接する機会を多く目にします。職員の接客マナーをもっと改善しなければならないと感じました。

回答

病院職員の言葉遣いや態度について、貴重なご意見をいただきありがとうございます。今回の患者さんからの声を真摯に受け止め、改めて言葉遣い等の接遇面について確認を行いました。また日頃の患者さんへの関わりや、接遇について検討し、今後はスタッフ相互で接遇チェックを行い、接遇の改善に努めて参りたいと思います。



声

電話をかけるため病棟の食堂に行った時に、初めて意見箱があることを知りました。食堂に行かない人にもわかるように、もう少し目のつく所に設置してください。

回答

貴重なご意見ありがとうございます。意見箱(患者さんからの「声」の回収箱)の設置場所の移動は困難ですが、わかりやすくするためにも、外来や病棟の掲示板等で意見箱の設置場所をご案内するようにいたしました。患者さんの「声」により医療サービスの改善と向上に繋がたいと考えておりますので、今後も皆様の「声」をお聞かせください。



＼ 感謝の声 /

声

看護師の皆さんは日々笑顔で、術後はより細かい配慮、丁寧な対応をしていただきました。特に担当看護師による精神面サポートは助かりました。

先生も忙しい中、毎日診察、丁寧な説明、質問しやすい雰囲気作りを心掛けていただき、不安がかなり払拭しました。

今日、治療の中で多少痛い思いはしましたが、嫌な思いは一度もありませんでした。

手術を含め、関わっていただいた職員の皆様に感謝しております。ありがとうございました。

回答

今回のお言葉をいただき、改めて看護の力を実感することができました。本当にありがとうございます。常日頃、身体面だけでなく精神面を支援することを心がけているため、今回のお言葉を伺い、大変うれしく思いました。今後も医療職間で協力し、安心して治療を受けていただけるよう努力して参ります。

(文責：病院長)



大分大学医学部附属病院

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 TEL 097-549-4411(代)
大分大学医学部附属病院ホームページ <http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html>

これまでの「かけはし」は、医学部附属病院ホームページからご覧いただけます。

